

総合診療部

I. はじめに（概要、教育理念、特色等）

私たちは、このような医師の育成を目指します

医療面接・身体診察・各種検査を駆使した患者情報収集能力に優れ、かつ高いエビデンス収集能力を持ち合わせた上で、患者さんの考え方や生活背景を勘案して診断・治療方針を決定する narrative-based medicine を実践でき、患者さんからも医療スタッフからも信頼される豊かな人間性を有する医師。

すなわち、診療所であれ病院であれ、患者さんの困りごとをどんなものであってもひとまず受け入れられる医師。小児であれ、成人であれ、救急であれ、在宅であれ、胸部であれ、膝であれ、皮膚であれ、どのような領域であってもいったん受け入れることのできる医師。医療面接と身体診察を駆使して緊急疾患と重大疾患を早期に鑑別し、年齢、性、地域性による有病率を考慮して、もっとも可能性のある疾患、次に考えられる疾患を想定し、マネージメントにあたる医師。治療は EBM に精通しながらも、そのみにとらわれることなく、患者さんとその周辺の環境、人生のステージに応じて、患者さんや必要に応じてご家族や多職種を交えて相談・カンファレンスのうえ、最良と考えられる方針を決定できる医師。緊急事態においては即行動することのできる医師。いうまでもなく同僚・他科医師・多職種と良好な関係を築ける医師。また未受診の地域住民の健康増進にも寄与できる医師。このような医師の育成を目指します。

II. 専門研修プログラム

①各専門研修コースの概要、取得できる専門医

入局後年数	卒後年数	身 分	研修内容	資 格 等
1～3	3～5	大学病院医員・大学スタッフ 関連病院勤務	総合診療専門研修 家庭医療専門研修	総合診療専門医・家庭医療 専門医
4～7	6～9	関連病院勤務・ 大学医員・社会人大学院	サブスペシャリティ領域 研修・総合診療専門研修 指導・研究	サブスペシャリティ専門医 取得（※）・学位取得
8～	8～	大学スタッフ・関連病院勤務	研修指導・研究	

<総合診断専門研修>

本研修プログラムでは徳島大学病院（総合診療部）を基幹施設とし、地域の連帯施設とともに施設群を構成しています。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能になります。各専門研修は下記の構成となります。

【必須診療科研修】

- ① 総合診療専門研修Ⅰ：診療所または地域の中小病院での外来診療・在宅医療中心
- ② 総合診療専門研修Ⅱ：総合診療部門を有する病院での病棟診療、救急診療中心
総診Ⅰと総診Ⅱは原則として異なる施設で行い、研修期間はそれぞれ6か月以上、合計18ヶ月以上
- ③ 内科：内科専門研修認定施設での研修。臓器別の専門内科でないことが望ましい。研修期間は12か月
- ④ 小児科：小児科の外来・救急・病棟で、日常的によく遭遇する疾患を中心とした研修。研修期間は3ヶ月
- ⑤ 救急科：救急救命センターあるいは救急科専門医指定施設。研修期間は3ヶ月

【選択診療科研修】

外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻科、皮膚科、総合診療部などの科での研修を、研修選択可能です（要相談）。

取得できる主な専門医資格

総合診療専門医・家庭医療専門医

※サブスペシャリティ領域についての詳細は、現在専門医機構が検討中

②大学病院での専門研修週間スケジュール

曜日	午 前	午 後
月	外来診療	外来診療
火	外来診療	外来診療・症例カンファレンス・セミナー
水	外来診療	外来診療
木	外来診療	外来診療
金	外来診療	外来診療・病棟回診・医局会

③研究・大学院

臨床医として働きながら、総合診療・家庭医療・地域医療・在宅医療・代替補完療法などを中心とした臨床研修だけではなく、女性医師・キャリア形成、国際医療などについても取り組んでいきます。また、大学院総合診療医学分野教室で社会人大学院生として研究に取り組むことが可能です。

④研修関連病院一覧（学会認定の有無）

病院名	総合診療専門研修	領域別研修
徳島大学病院		内科、小児科、救急、総合診療、眼科、耳鼻科、皮膚科
徳島県立中央病院	総診Ⅱ	内科、小児科、救急、外科、整形外科、産婦人科
徳島市民病院	総診Ⅱ	内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科
徳島赤十字病院	総診Ⅱ	内科、小児科、救急
吉野川医療センター	総診Ⅱ	内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科
阿南医療センター	総診Ⅱ	内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科
徳島県鳴門病院	総診Ⅱ	内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科
つるぎ町立半田病院	総診Ⅱ	内科、小児科、外科、産婦人科
徳島県立三好病院	総診Ⅱ	内科、救急、整形外科
徳島県立海部病院	総診Ⅰ、総診Ⅱ	内科、整形外科
美波町国民健康保険美波病院	総診Ⅰ	
三好市国民健康保険市立三野病院	総診Ⅰ、総診Ⅱ	
ホウエツ病院	総診Ⅰ、総診Ⅱ	
田岡病院	総診Ⅱ	救急、外科、整形外科
徳島健生病院	総診Ⅰ、総診Ⅱ	
健生石井クリニック	総診Ⅰ	
健生西部診療所	総診Ⅰ	
鳴門山上病院	総診Ⅰ	

⑤国内外への臨床・研究留学

国内外への臨床・研究留学については、希望に応じて随時相談に乗ります。

【過去の研修先】 亀田ファミリークリニック、八戸市立市民病院

Ⅲ. 教育指導体制

①指導スタッフ一覧表（氏名、役職、専門領域、資格ほか）

氏名	役職	専門領域	資格ほか
谷 憲治	特任教授	総合診療、 膠原病・リウマチ、 呼吸器、アレルギー	日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、 日本病院総合診療医学会認定医、 日本内科学会認定医・指導医、 日本リウマチ学会専門医・指導医、 日本呼吸器学会専門医・指導医、 日本アレルギー学会専門医・指導医、 日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
大倉 佳宏	特任教授	総合内科、家庭医療	日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医・ 認定指導医
山口 治隆	特任准教授 [総合診療医学分野]	総合診療	日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
鈴記 好博	特任教授 [総合診療医学分野]	総合診療、総合内科、 災害医療、国際医療	日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、 日本病院総合診療医学会認定医、日本内科学会総 合内科専門医
河南 真吾	特任教授 [総合診療医学分野]	総合診療・家庭医療	日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医・ 認定指導医
田畑 良	非常勤講師 [総合診療医学分野]	総合診療・家庭医療	日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医・ 認定指導医、日本内科学会総合内科専門医

②診療内容・診療実績

2018年4月ー2019年5月における新患者数は177名（院外紹介101名 院内紹介69名 飛び込み症例7名）でした。初診時の主訴は、倦怠感、検査値異常精査、足のしびれ・痛み、その他筋骨格系の痛み、発熱、多関節痛などでした。診断名は、前皮神経絞扼症候群、線維筋痛症、リウマチ性多発筋痛症、RS3PE症候群、悪性リンパ腫、脳幹梗塞、睡眠時無呼吸症候群、身体症状症、アルコール依存症、アミロイドーシス、SAPHO症候群、自己炎症症候群（家族性地中海熱、PFAPA症候群）などで、特定の臓器によらない幅広い診療を行っています。

③研究内容

- 総合診療 : 大学病院総合診療部での診療内容
- 地域医療 : 地域診療に必要な人材、徳島県の終末期医療の実績
- 医療過疎地域 : 医師の地域偏在・診療科偏在
- 在宅医療 : 患者やその家族の抱える問題点、その解決策
- 女性医師 : 結婚・出産後の休職・離職、キャリア形成
- 職場環境 : 医師の就労環境、ワークライフバランス
- 国際医療 : 途上国医療、低年齢出産・中絶
- 代替補完療法 : 漢方、アンチエイジング、その他

④同門会、病診連携組織

現在同門会はありません。

IV. メッセージ

総合診療専門医・家庭医療専門医を目指す若い医師だけでなく、総合診療能力を習得したい全ての医師のキャリアアップを、充実したスタッフで支援いたします。

V. 連絡先

徳島大学病院総合診療部

- ・ TEL : 088 - 633 - 9614 FAX : 088 - 633 - 9687
- ・ 教室ホームページ <http://www.tiiki.umin.jp/>
- ・ 電子メール 谷 憲治 taniken@tokushima-u.ac.jp